



要点 1 文章・段落・文・文節・単語

【解答】

① 次の(1)～(5)の各文の空欄にあてはまる言葉を、あとのア～クからそれぞれ一つを選び、記号で答えなさい。

(1) の切れめは、話し口調で読んでみて「ネ・サ・ヨ」が自然につくところで分けるとよい。

(2) 文章の中で、内容ごとのまとまりのうち、改行し、一字下げして書き出すものを という。

(3) 文の終わりには がつくのがふつうであるが、感嘆符(！)や疑問符(?)がつくこともある。

(4) とは、たがいにつながりをもった文の集まりのことで、筆者や話し手の考えや感じたことを述べた一まとまりの表現である。

(5) 言葉を、意味や働きの上から分けたときの最小単位を とよぶ。これを文法上の性質によって分類したものを品詞という。

ア 文章 イ 文法 ウ 形式段落 エ 意味段落
オ 文節 カ 単語 キ 読点(、) ク 句点(。)

オ ウ ク ア カ

② 次は、ある文章から句点(。)を取り除いたものです。これにもとどおり句点(。)を補うなら、いくつの文が数えられますか。数を答えなさい。

日本語は短歌、俳句といった世界に類のすくない短詩型文学をはじめ、文学の表現手段としてはすぐれた適性をもっている。もともとその半面、科学的、哲学的な思考表現には日本語は不適當であるという意見が、ごく最近もノーベル賞受賞物理学者から提出された。これについては、日本語に関心をもつ人々によって理性的な討論が行われることを望みたい。

(外山滋比古「日本語の個性」による)

三
つ

③ 例にならって、(1)～(5)の各文を、それぞれ文節に分けなさい。

例 きょうは、一きのうより一だいが一あたたかい。

「ネ・サ・ヨ」をつけて分ける。

(1) 午後から、雨が降る。
きょうはネ、きのうよりネ、だいがネ、あたたかいヨ。

(2) あの人も、ぼくと同じ中学生だ。

(3) 春になったら、庭にたくさん花の苗を植えよう。

(4) 山の上は、吹き渡る風もさわやかである。

(5) 清流には、鮎らしい魚がすいすいと泳いでいた。

④ 例にならって、(1)～(5)の各文を、それぞれ単語に分けなさい。

例 月が、一庭を一明るく一照らした。

複合語は一単語。

(1) 明日、友人が私の家へ来る。

(2) 四時から委員会を開きます。

(3) 外国に住むおじさんが手紙をくれた。

(4) 常識が必ず正しいと決まっているわけではない。

(5) その時、私は図書室で本を読みました。



【解説】

要点 1 文章・段落・文・文節・単語

① (1)~(5)は、それぞれ「文章」「段落」「文」「文節」「単語」のどれかについての説明文。

(1) **文節**——「ネ・サ・ヨ」をつけて分ける。

「文」は選択肢の中にはない。

(2) **段落**——文章の中で、内容ごとのまとまり。

形式段落——改行し、一字下げて書く。

意味段落——形式段落を意味のつながりのうえ

からいくつかまとめたもの。

(3) **感嘆符(！)・疑問符(？)・句点(。)**——文の終

わりにつける。

読点(、)——文の途中につける。

(4) **文章・段落**——「文」より大きい単位。

この場合、「筆者や話し手の考えや感じたこと

を述べた一まとまりの表現」とあるから、「筆者」

や「話し手」がうったえたいことを表したものと

いう意味でとらえられるので、全体的な「文章」

がふさわしい。

(5) **単語**——言葉を、意味や働きのうえから分けたときの

最小単位。

② まず、言い切りの形になっているところに目をつける。

このとき注意したいのは、体言に係るもの。現代語で

は、文の中で形が変わる言葉の**言い切りの形(終止形)**

と**体言に係る形(連体形)**とが同形だからである。文章

全体の内容をしつかりととらえ、「文」に正しく分ける。

ミスポイント

全体の内容を大づかみにすることを

せず、細部に気をとられるとミスする。

・日本語は()すぐれた適性をもっている。

——というふうに、文の中の柱となる語句をおさえて読

んでいくとよい。

③ 「文節」の特徴や分け方をしつかり覚えてとりかか

る。①文節は「ネ・サ・ヨ」をつけて分けてみる。

②文節一つにつき自立語一つ。付属語だけでは文節にな

らない。

(1) 「午後からネ、雨がネ、降るヨ。」

(2) 「あのネ、人もネ、ぼくとネ、同じネ、中学生だヨ。」

(3) 「春にネ、なつたらネ、庭にネ、たくさんネ、花の

ネ、苗をネ、植えようネ。」

(4) 「山のネ、上はネ、吹き渡るネ、風もネ、さわやか

でネ、あるヨ。」

(5) 「清流にはネ、鮎らしいネ、魚がネ、すいすいとネ、

泳いでネ、いたヨ。」

④ **ミスポイント** (2)「あの」はひらがなだし、「あの

人」で一人の人物を表すからなどと思うと、独立した文

節であることを見落とす。「あの」は**付属語ではなく自立**

語。付属語はいつも自立語の下につくが、この「あ

の」は**文頭にあって自立していることに目を向けた**い。

(4)「吹き渡る」は**複合語で一語なので分けられない**。

(5)「泳いでいた」は「いた」の中に「い(いる)」の連

用形」という自立語があるので、分けなければならな

い。

④ 単語に分けるときのコツは、辞書で引ける言葉にな

るまで分けること。複合語は一語で、それ以上分けら

れないので注意する。

暗記 ①単語とは、意味を表す最小単位。

②付属語も、一つ一つが**一単語**。

(1) 明日・友人・が・私・の・家・へ・来る。

(2) 四時・から・委員会・を・開き・ます。

(3) 外国・に・住む・おじさん・が・手紙・を・くれ・

た。

(4) 常識・が・必ず・正しい・と・決まっ・て・いる・

わけ・で・は・ない。

(5) その・時・私・は・図書室・で・本・を・読ん・

で・い・まし・た。

⑤ **ミスポイント** (2)の「四時」「委員会」や(5)の「図

書室」は複合語なので分けられない。逆に(4)の「決まっ

て」や(5)の「読んで」「いました」など、「て(で)」や

「た」に続くものは分けるのを忘れがちである。「て(で)」

も「た」もそれだけで意味をもつ立派な単語なので、そ

の前で区切ること。

コピー・タイム

これでも「文」!?

「文」というと主語・述語のそろったある程度の長さの

ものを思い浮かべるが、単語一個だけでも立派に「文」

になれる。たとえば次の三つの文。

あれ。何? 虹!

要は、「。」「?」「!」のどれかで終われば「文」な

のだ。

要点 2 文の成分

【解答】

1 次の各文の——線部の文節は、文の中でどのような成分となっておりますか。あとのア～カから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度選んでもよいこととします。)

(1) 当分、寒い日が続く。

イ

(2) 蒸し暑いから、寝苦しい。

オ

(3) たくさんの人々が集まった。

ウ

(4) はい、わかりました。

カ

(5) もっとゆつくり歩こう。

エ

(6) 十時に出発です。

エ

(7) 雨が降りそうだ。しかし、かさを持ってこなかった。

オ

(8) その絵には、半分食べかけのリンゴがえがかれていました。

ア

ア 主語 イ 述語 ウ 連体修飾語 エ 連用修飾語
オ 接続語 カ 独立語

2 次の(1)～(3)の各文の——線部の文節が係っている文節を抜き出して()に書きなさい。また、その文節と——線部の文節とは、どんな関係になっていますか。あとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 自分の気持ちを、はっきり伝えなさい。

イ

() 伝えなさい

イ

(2) 毎年、コスモスがここにたくさん咲く。

ア

() 咲く

ア

(3) 思っていることを、素直に書く。

エ

() いる

エ

ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係
ウ 並立の関係 エ 補助の関係

3 次の(1)～(4)の各文から、並立の関係になっている文節をあるだけ抜き出して書きなさい。語順を入れかえても文意に変化がなければ並立の関係。

(1) 円は、コンパスを使ってかいたほうが、きれいで正確だ。

() きれいで・正確だ

(2) オリオンやカシオペヤは、冬の空の代表的な星座である。

() オリオンや・カシオペヤは

(3) 太郎、次郎、ちよつとここに来て座りなさい。

() 太郎・次郎

(4) わが家は、祖父と祖母と、父と母と姉とぼくの六人家族です。

() 祖父と・祖母と・父と・母と・姉と・ぼくの

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

通勤や通学のための時間は、ほとんど毎日、規則的にまた強制的に割り当てられるものであるから、語学には実によく向いている。そして窓の外や車内の広告を時々見ながら例文の暗記をするのは、家に帰って机の前に向かうよりも、ずっとよいものである。(渡部昇一「知的生活の方法」による)

(1) この文章は二つの文でできています。初めの文の主部を抜き出して書きなさい。

() 通勤や通学のための時間は

(2) 線①の部分は、次のどれにあてはまりますか。記号で答えなさい。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部 エ 理由・条件を表す部分
エ 接続部 オ 独立部 「接続部」

エ

(3) 線②の部分が全体として係っていくのはどの文節ですか。一文節を抜き出して書きなさい。

() 見ながら



【解説】

要点 2 文の成分

1 文の成分の種類を見分ける問題。どんな文でも、初めに主語・述語をおさえておくと、それぞれの文節の働きを見きわめやすい。主語・述語のつかみ方をまず覚えよう。

暗記

① 述語は原則として文末にある。

② 述語に係って「……は」「……が」「……も」で終わる文節が主語である。

(1) 当分、寒い日が続く。
主語 述語

* 線部は文末にあるので述語である。

(理由) 述語

(2) 蒸し暑いから、寝苦しい。

* 主語のない文。線部は述語の理由を表すので接続語。

主語 述語

(3) たくさんの人々が集まった。

連体修飾語 体言

* 主語は「人々が」で、線部はこの中の「人々」が

「どれほどの」人々なのかを表している。

独立語 述語

(4) はい、わかりました。

* これも主語のない文。線部は述語と係り受け

の関係になく独立している。

(5) もっとゆっくり歩こう。

連用修飾語 用言

* 線部は「どのように」歩くかを表している。

(6) 十時に出發です。

連用修飾語 用言

* 線部は「いつ」出發するかを表している。

(7) 雨が降りそうだ。しかし、かさを持ってこなかった。
主語 述語 接続語 述部

* 線部は、あとの文の初めにあって前後の文の内容の関係を表している。

(8) その絵には、半分食べかけのリンゴがえがかれていました。
主語 述部

* 線部は「……が」で終わる文節。

ミスポイント

接続語については(7)のようなものと

(2)のような理由・条件を表す文節との二種類があるので気をつけたい。また、独立語になるのは感動・よびかけのほか(4)のような応答、「十一月三日、それは文化の日だ。」の「十一月三日」に類する文節などである。修飾語が連用か連体かは、受ける言葉(「文節」ではなく)が体言か用言かで区別する。

ハイレベル例題

次の線部は連体修飾語か連用修飾語か。

① きょうは暑い日だ。 ② 夜空に輝く星を見る。

③ ここにこと私に笑いかける赤ちゃんは、かわいい。

答 ① 連体修飾語(「日」に係る) ② 連用修飾語(「輝く」に係る) ③ 連用修飾語(「笑いかける」に係る)

2 文節の関係を見分ける問題。ここでは特に「係り受け」をもつ関係が問題になっているので、A→Eのうち

ウは初めから除外して考えてよい。並立の関係は互いに同等なので、係り受けの関係はまたないからである。

係っている文節を探すには、まず文を文節に分け、その各文節の中から、線部を直接つなげて読んで最も自然なものを選ぶ、という方法が確実である。

(1) 「気持ちを下伝えなさい」と係る。「伝えなさい」は

述語だが、「気持ちを」は主語でなく修飾語。よってイ。

(2) 「コスモスが咲く」と係る。「何が」どうする」という文の基本形にあてはまるのでア。

(3) 「思つて↓いる」と係る。下の文節が「いる・くる・ある・ない」などの場合にあてはまるのでエ。

3 並立の関係になっている文節は連文節となり、主部・

述部・修飾部・接続部・独立部のいずれにもなる。(1)は述部、(2)は主部、(3)は独立部(よびかけ)、(4)は修飾部を作る各文節が並立の関係になっている。

言葉が列挙されているところをおさえて答えればよいが、その前に語順を入れかえて読んでみる。語順をかえても全文の意味が変わらなければ並立の関係といえる。

ミスポイント

体言を列挙した形のもののはわかりやすいが、(1)のようなものは気づきにくい。用言が並ぶ場合もあることを頭に入れておく。(ただし連用の修飾・被修飾との区別が必要。語順を入れかえて関係を確かめる。)

4 「向いているのか」といえば「時間」である。この

「時間」に係る修飾部も含めて「主部」である。

(2) 「……から」で終わっている点に着目。理由・条件を表す文節は接続語。連文節の文の成分のとらえ方も基本的に文節と同じ。線①は「接続部」である。

(3) 「窓の外や車内の広告を」どうするのか、と考えてみる。ここは「一文節で」という条件が出されているので気をつける。